

平成 24 年度 かんだ連雀 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

前年度特養の平均介護度が 4 を割ったことに続いて 3.83 となった。要介護 1 が 1 名在籍していることも前年度同様で、かつ要介護 2 は 3 名増えて 5 名となり軽度化傾向がある。また施設での看取りの増加傾向も同様に見られた（退所者 16 名のうち 10 名 62.5%）。通所介護は稼働率が 46.8%（前年度 52.3%）。

2) 職員・育成

前年度 2 月に他施設からの複数の異動があったこと、施設採用職員が本採用後経験を積んだこと、経験者の新規採用があったこと等から、連雀なりの介護技術の安定がみられる。反面、未経験者の育成には時間を要する状況がある。尚、介護職のリーダー 6 名のうち、4 名は連雀以外の経験を持っている。

3) 平成 24 年度事業計画についての報告

各事業の業務管理について事業責任者の意識付けが進んだ。腰痛対策は昨年同様の取り組みとなったが、全体的に腰痛の悪化状況はない。神田事業所として事例報告会を開催し、岩本・連雀の事業を地域へ紹介した。千代田区の新事業（定期巡回随時対応型訪問介護看護）の選定を受け 3 月下旬に指定通知を受けた。

4) 平成 24 年度重点の動き

前年度の苦情を受け、リスク管理において痣・内出血を利用者ごとに時系列で把握・検証する取り組みを始め、一定の成果を出した。施設の夜勤体制を 4 名から 3 名に変えたことで、職員の業務に対する意識および課題である日中活動の充実について成果がみられた。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	夜勤体制を 4 名から 3 名にし、日中に職員を配置し、余暇活動を実施。更に週単位の余暇活動を実施した。	余暇活動の計画的な実施。軽介護度者への対応。
短期入所	空床利用により、緊急ショートステイの受け入れを柔軟な対応をした。	リピーターの減少による新規利用者の獲得。
デイサービス	年度末になって、業務の見直しを行い、より利用者に寄り添う活動ができるようになった	新規利用者開拓が進まず稼働率が低かった
ホームヘルプサービス	職員の減員があったものの、事故や苦情等なく、安定したサービスを提供することができた。	スキルアップのため研修等への積極的な参加
地域包括支援センター	・「地域支え合いネットワークづくり」に参加することにより、各町会と顔が見える関係になってきている ・介護予防支援業務委託先の増加	職員が毎年変わったため、部署内部の連携と情報共有を徹底する
居宅介護支援センター	部署外部・内部での連携、他職種との連携の取れた支援ができた。	新事業の定期巡回を理解しプランを実践する。
事務	建物診断を行い、今後の建物修繕の中長期計画の基盤を作った	修繕計画を作成し、中長期計画を完成させる
管理	救急搬送に関する考え方を嘱託医および職員間で整理・共通認識とした。	家族との認識の共有を深めていくこと。

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

第三者評価は書類や記録の取り方について評価を受けた。苦情は 5 件あった。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

感染症研修 7 月（白癬症）・11 月（吐物処理）、大きな感染症の蔓延なく経過。

3) 緊急対応

救急搬送 11 件（肺炎 4 件・骨折 2 件・皮膚潰瘍 2 件・腸閉塞 1 件・水腎症 1 件・誤嚥 1 件）

4) 防災

初めての法人一斉の訓練により、意識向上が図られた。

5) 勤務管理

作成時の人員不足が勤務変更の頻度につながっていた。過不足のない適切な人員配置が重要。